

横須賀美術館評価制度の評価項目(案)

平成22年(2010年)3月9日  
横須賀美術館評価委員会 資料3

目標	点検項目	評価指標	1次評価	平成21年度実績 (1月末現在)	平成20年度実績	平成19年度実績
①美術を通じた交流の促進			「美術館条例」			
	a. 年間観覧者数	10万人		87,034人	106,520人	165,961人
	b. 年間来館者数	20万人		196,267人	246,337人	386,175人
	c. 市民/全体の比率	40%に近づける	B	30.4%	36.8%	22.8%
	d. パブリシティの状況(雑誌・新聞からの認知率)	20%	C	14.5%	17.2%	27.2%
	e. アクセス満足度	70%	A	82.9%	(未調査)	(未調査)
②質の高い展覧会の開催			「美術館基本計画」			
	a. 企画展集客率(企画展目的の来館者/サンプル数)	50%	A	60.0%*	52.2%	43.2%
	b. 企画展の満足度	70%	B	73.5%*	76.0%	70.5%
	c. 所蔵品展の満足度	70%	C	62.1%	60.1%	65.8%
	d. 谷内六郎展の満足度	70%	B	75.2%	77.3%	86.9%
	e. リピート率(複数回来館者/回答者)	50%に近づける	C	33.6%	27.5%	20.5%
③やすらぎの場の提供			(来館者アンケート)			
	a. 館内アメニティ満足度	70%	A	88.8%	(未調査)	(未調査)
	b. スタッフ対応の満足度	70%	B	78.8%	69.6%	78.9%
	c. ミュージアムショップの満足度	70%	C	58.6%	85.4%	(未調査)
	d. レストランの満足度	70%	C	63.0%	67.6%	(未調査)
	e. 図書室の満足度	70%	C	66.3%	68.6%	(未調査)
	f. 観音崎公園への滞在時間平均	3時間	C	2.58時間*	2.70時間	(未調査)

\*企画展ごとの特性を考慮し補正した値。(各展観覧者数)×(各展指数)+・・・/(観覧者合計)

目標	点検項目	評価指標	1次評価	自己評価の方法	
④知的好奇心の育成と充足			「美術館活動の基本方針」		
	a. 企画展・所蔵品展・谷内六郎展の開催	・収蔵作品を中心とした専門的な調査研究や美術館活動に関する研究を行い、その成果を積極的に来館者に還元している。 ・美術作品との出会い、美術作品を通して市民どうしのコミュニケーションを促している。	B	個々の事業のねらい、反省点等に対するレポート(事業報告書)を作成、共有する	
	b. 講演会・アーティストトークなどの開催		B		
	c. 一般向けワークショップなどの開催		A		
	d. 学芸員によるギャラリートークの実施		B		年度ごとの状況をまとめたレポートを作成
	e. 学芸員による論文等の充実		C		学芸員による相互評価
⑤福祉活動の展開			「美術館活動の基本方針」		
	a. 福祉とアートをテーマとした講演会の開催	・年齢や障害の有無にかかわらずすべての人が充実した時間を過ごすための環境づくりを積極的に行っている。	B	個々の事業のねらい、反省点等に対するレポート(事業報告書)を作成、共有する	
	b. 障害児を対象としたワークショップの開催		A		
	c. 障害者施設(対話鑑賞)、高齢者施設などの受け入れ		B		年度ごとの状況をまとめたレポートを作成
	d. 託児サービスの実施		B		年度ごとの状況をまとめたレポートを作成
⑥学校との連携			「美術館活動の基本方針」		
	a. 児童生徒造形作品展の開催	・教師との緊密な連携によって、児童生徒にとって親しみやすい鑑賞の場を提供している。 ・鑑賞の場としてはもちろん、社会見学そのほかの美術以外の分野でも協力関係がもたれている。	B	事業のねらい、反省点等に対するレポート(事業報告書)を作成、共有する	
	b. 小学校美術館鑑賞会の受け入れ		B		受け入れ状況、先生方の感想などをまとめたレポートを作成
	c. 中学生のための美術鑑賞教室の開催		B		年度ごとの状況をまとめたレポートを作成
	d. 研修等(職業体験、インターンシップ他)の受け入れ		B		
⑦市民との協働			「美術館活動の基本方針」		
	a. サポートボランティアの活動状況	・美術館の事業への市民参加の機会が十分に確保されている。 ・ボランティアの主体性が尊重され、やりがいをもって活動している。	B	年度ごとの活動状況、ボランティアの感想をまとめたレポートを作成	
	b. プロジェクトボランティアの活動状況		B		
⑧子どもたちへの美術館教育			「美術館活動の基本方針」		
	a. 子ども向けワークショップの開催	・コミュニケーションを通じて美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供している。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施している。	A	個々の事業のねらい、反省点等に対するレポート(事業報告書)を作成、共有する	
	b. アーティストと出会う会の開催		A		
⑨すぐれた美術品の収集・保管			「美術館基本構想」		
	a. 作品収集の状況	・収集方針に基づき、すぐれた作品を収集し、適切な管理をしている。 ・所蔵作品が館内ばかりでなく、ひろく価値を認められ、活用されている。	C	年度ごとの状況をまとめたレポートを作成	
	b. 保存・修復の状況		B		
	c. 所蔵作品の貸出状況		A		